

多胎児の増加は加速されている—1988年から1991年出産の多胎児全国データの分析—

(分担研究：多胎児に対するケアのあり方に関する研究)

研究協力者：浅香昭雄（山梨医科大学保健学Ⅱ講座）

共同研究者：加藤則子（国立公衆衛生院母子保健学部）

要約

対象は、1988-1991年の4年間の人口動態出生票、死産票の磁気テープより得られた68、118個体の多胎出産資料である。「人口動態統計」より得られた同じ年度出産の単胎と比較した。単胎児は上記年度中に漸減傾向にあった。一方、多胎児は1988年の1.29%より1989年1.36%、1990年1.37%、1991年には1.43%と漸増傾向にあった。多胎児出産の割合はこの4年間をみても経年的に年度毎に有意に増加していた。

見出し語：多胎児出産、単胎児出産、多胎児の増加

はじめに

近年、合計特殊出生率の減少が目立っているが、多胎児に関してはその増加傾向が注目されている。大量のサンプルを用いた、かつ比較的短期間で検討した報告はない。そこで、1988年から1991年までの全国データを用いて検討してみた。

対象と方法

1988年から1991年の人口動態調査出生票、死産票の磁気テープを用いて多胎出産を抽出した。上記年度に対応する「人口動態統計」より単胎の出産を把握した。4年間の多胎児と単胎児の割合を比較した。

結果と考察

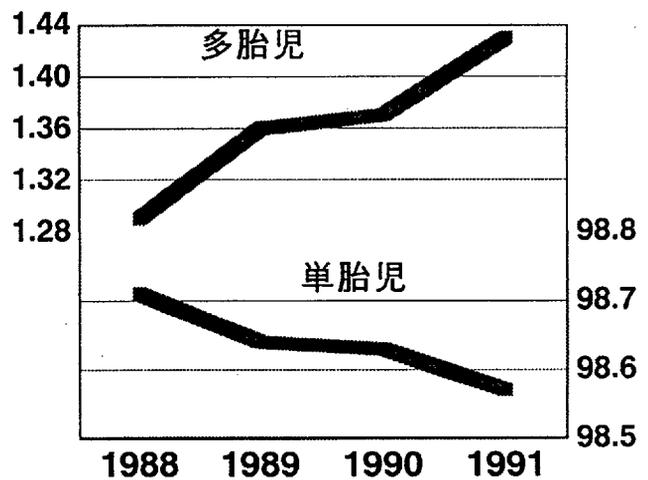
図1から明らかのように、1988年から1991年まで多胎児の割合は1.29%、1.36%、1.37%、1.43%と増加をみせていた。一方、単胎児は98.71%、98.64%、98.63%、98.57%と減少していた。年度の方向性を考慮した多胎児と単胎児の割合の変化の検定(Mantel-Haenszel Chi-Square)は有意差が認められた。僅か4年間という短い期間においても、多胎児の増加は著明であることが分かり、近年の増加傾向には拍車がかけられていることが明らかになった。

文献

Asaka A Analysis of live birth weight among multiple deliveries in Japan. Eighth International Congress on Twin Studies. May, 1995(Virginia, Richmond)

図1 1988-1991年に出産した多胎児の増加と単胎児の減少

年	多胎児	単胎児	計
1988	17,073 (1.29%)	1,296,929 (98.71%)	1,314,002
1989	16,989 (1.36%)	1,229,909 (98.64%)	1,246,898
1990	16,724 (1.37%)	1,204,855 (98.63%)	1,221,579
1991	17,332 (1.43%)	1,205,910 (98.57%)	1,223,242
計	68,118	4,937,603	5,005,721



Mantel-Haenszel Chi-Square : 61.321
df = 1, p < 0.001



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

対象は、1988-1991年の4年間の人口動態出生票、死産票の磁気テープより得られた68、118個体の多胎出産資料である。「人口動態統計」より得られた同じ年度出産の単胎と比較した。単胎児は上記年度中に漸減傾向にあった。一方、多胎児は1988年の1.29%より1989年1.36%、1990年1.37%、1991年にば1.43%と漸増傾向にあった。多胎児出産の割合はこの4年間をみても経年的に年度毎に有意に増加していた。